

## 直前期に覚えた方がいいもの # 2

# 1 の動画も見てください

### ★連結会計の開始仕訳

#### <問題 1>

P社は×1年3月末にS社の発行済株式総数の60%を300,000円で取得して支配を獲得した。以下の条件で連結3年度における開始仕訳を行いなさい。

① S社の支配獲得時の個別BSの内容は以下のとおりである

資本金 300,000 円、資本剰余金 80,000 円、利益剰余金 20,000 円

② S社の連結2年度における個別BSの内容は以下のとおりである

資本金 300,000 円、資本剰余金 80,000 円、利益剰余金 30,000 円

また、個別PLの当期純利益は15,000円である

S社の利益剰余金の変動要因は当期純利益の計上と配当金の支払いである。

③のれんは支配獲得時の翌年から10年間で均等償却を行っている

借方科目	借方金額	貸方科目	貸方金額

#### <問題 2>

P社はS社の発行済株式総数の60%を取得し支配を獲得している。S社はP社からのみ商品を仕入れており、×2年度末における商品の在庫は12,000円、×3年度における商品在庫は15,000円であった。P社のS社に対する売上総利益率は10%である。未実現利益の控除に関する期首および期末の仕訳を行いなさい。

借方科目	借方金額	貸方科目	貸方金額

★標準原価差異の問題

基準操業度 100 個

実際操業度 80 個

標準操業度 70 個

基準操業度における製造間接費の予算額は変動費 100,000 円、固定費 200,000 円である。  
当月の製造間接費総額 310,000 円

この場合における、以下の問に答えなさい

①4 分法における差異分析を行いなさい

②3 分法における差異分析を行いなさい。なお、当社では能率差異は固定費と変動費から構成されているとして計算している。

③3 分法における差異分析を行いなさい。なお、当社では固定費から発生する差異は全額不働能力差異としている。

## ★直接原価計算の問題

### ①全直末首とは？

簡単な例で考えよう

当月における工場でかかった原価は以下のとおりである。

材料費（変動費）を 10,000 円投入した

工場家賃（固定費）を 20,000 円支払った。

製品は 4 個完成し 3 個販売（@10,000）できた

<直接原価計算の損益計算書>

売上	30,000
変動売上原価	7,500
変動製造マージン	22,500
固定製造間接費	20,000
営業利益	2,500

<全部原価計算の営業利益>

売上	30,000
売上原価	22,500
売上総利益	7,500

この利益の差は 5,000 円？

固定費（家賃）が原価に全額計上されているかどうかの違い

全部原価計算では、 $20,000 \text{ 円} \times 1/4 = 5,000 \text{ 円}$  が原価に計上されていない（在庫になっている）

従って期末在庫がある場合は直接原価計算の方が利益が少なくなる

全部原価計算の営業利益（7,500）

= 直接原価計算の営業利益（2,500）+ 期末棚卸資産に含まれる固定製造間接費（5,000）

※期首と期末の原価に与える影響は逆なので期首の分はマイナスする

★固定予算における差異分析とは？

次の問題を解いてみよう

基準操業度 100 個

実際操業度 90 個

当月の製造間接費総額 310,000 円

基準操業度における製造間接費の予算額は変動費 100,000 円、固定費 200,000 円である

この場合における、以下の問に答えなさい

①公式法変動予算で予算差異・操業度差異を計算しなさい

予算差異 20,000 (不利差異) 操業度差異 20,000 (不利差異)

②固定予算で予算差異・操業度差異を計算しなさい

予算差異 10,000 (不利差異) 操業度差異 30,000 (不利差異)

シュラッター図は 2 個覚える必要はない

